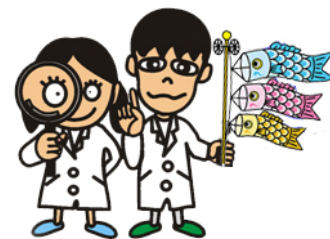


4月の衛研検査情報

～トピックス～



医動物・種類同定検査のまとめ

身近にいる虫で「これは何だろう?」と思うものはありませんか。虫の種類が分かれば、発生源や発生時期、人への害などが分かるため、効果的な対策を立てることができます。医動物担当では、各区福祉保健センターや事業者などの依頼を受けて、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。

今月号では、平成23年10月から平成24年3月の検査結果について、主な事例を写真付きで解説しています。

主な結果 種類同定検査を行った20検体のうち、昆虫類(コウチュウ目、ハチ目等)が13件(65.0%)でした。

食品等の苦情品検査

食品添加物担当では、異臭や異物混入などの苦情で各区福祉保健センターに届けられた食品等について、原因を探る検査を行っています。

今月号では、平成23年10月から平成24年3月に実施した食品等の苦情品の検査結果について、写真付きで解説しています。



主な結果 苦情品について原因究明のために実施した検査は25件、39検体でした。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多く見られました。

市内流通牛肉中・市内流通豚肉中の動物用医薬品検査

日頃の食事に、牛肉や豚肉を利用される方も多いと思います。牛や豚を育てるときには、病気の予防や治療のために、動物用の医薬品が使われることがあります。

今月号では、平成23年8月と平成24年2月に実施した市内に流通する牛肉と豚肉について、動物用医薬品(合成抗菌剤28項目と内寄生虫用剤3項目)の検査結果について解説しています。

主な結果 牛肉(筋肉・脂肪)9件、豚肉(筋肉・脂肪)11件について検査した結果、動物用医薬品は検出されませんでした。

農作物の残留農薬検査

毎日食卓に上る野菜や果物を育てるときには、一般的に農薬が用いられます。食品に残留する農薬の許容量は、農薬や農作物ごとに厚生労働省によって定められています。微量汚染物担当では、市内に流通する農作物等に残留する農薬が厚生労働省の基準を満たしているかを検査しています。

平成22年度より一農作物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今月号では、平成24年1月から3月に実施した残留農薬の検査結果について解説しています。

主な結果 今回の検査では、市内産農作物(ネギ)1検体、輸入農作物(かぼちゃ、グレープフルーツ、スイーティ)3検体から農薬が検出されましたが、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加え、毎月、「検査情報月報」として報告しています。